

お薬のしおり

小児に粉薬を飲ませる工夫

No.91 (H21.5)

東京医科大学病院 薬剤部

子どもが病気になったとき、病院から処方された薬を飲むのを嫌がって困ったことはありませんか？ よく、「粉薬は水で練って、指で上あごやほほの内側に塗りつけて、水などで飲ませる」と書かれています。実際にやってみると子供が口を開けなかったり、指を噛まれたりと以外に難しいものです。

子どもにとって薬は「苦くてまずい嫌なもの」として認識することが多いようです。一度薬が嫌いになると、それ以降は、なかなか薬を飲んでくれなくなり、親を困らせます。基本的には薬を水やぬるま湯で飲ませる習慣をつけることが大切ですが、薬を嫌がる子どもに対しては少しでも薬を飲みやすくするために食品と一緒に薬を服用させる方法があります。

子どもが薬（特に粉薬）を嫌いになる大きな要因として挙げられるのが「苦味」です。薬と食品を混ぜることによって、この苦味を感じにくくさせて薬を飲みやすくします。

薬を混ぜる食品として比較的どの粉薬とも相性もいいものはアイスクリームです。冷たい食品は味覚を鈍らせて苦味を感じにくくします。アイスクリームは口当たりがよく、食欲のない子どもにも食べさせやすいという利点もあります。しかし、体を冷やしてしまうために咳を誘発することがあるので、喘息の子どもや咳の症状がある子どもには注意して食べさせるようにしましょう。

苦味の特に強い薬には、粘度が高く味の濃い食品（チョコレートクリーム、ピーナッツバター、ジャムなど）と一緒にすることも苦味を隠す一つの方法です。

一般的には、一回分の薬を服用直前に食品に混ぜることは問題ないと考えられていますが、食品と混ぜることでまずくなり余計に飲みにくくなる薬もあります。また、薬によっては食品と一緒にすることで苦味が増



したり、薬の作用が強くなったり弱くなったりする場合があります。混ぜる場合は以下の点に注意して下さい。

- ① ミルクには混ぜない（薬を混ぜるとミルクの味が変わってしまい、そのためにミルク嫌いになると困る）
- ② 熱い味噌汁やスープに混ぜない（薬と混ぜると薬の成分が変質することがあるので避ける）
- ③ 主食となるおかゆやうどんには混ぜない（主食を嫌いになると困る）
- ④ 1歳未満の赤ちゃんにはハチミツは避ける。（乳児ボツリヌス症の原因となる菌が含まれている可能性がある。）

また、一般的に飲ませる時期は哺乳の前、そして赤ちゃんの機嫌が良いときを見はからって飲ませるようにしましょう。

幼児期（1～5歳）くらいの子どもでは味覚や好き嫌いが多様化し、本人の意思が出てくるため薬を飲ませることが難しくなります。しかし、親の説得によって薬を飲む子どもは少なくありません。さらに小学校に上がる頃になると、薬を飲む意味を理解し、きちんと薬を飲むようになってきます。保護者が子どもの薬を飲みたくないという思いや不安を充分理解した上で、薬を飲まなければいけない理由を話し、薬を飲んだら素直にほめてあげることが大切です。

薬と食品との相性はさまざまですので、子どもに処方された薬をどのようにして飲ませればいいのか、食品と混ぜるとしたら相性はどうかかなど、質問がある場合は気軽に薬剤師に聞いてください。

<薬の苦味などが和らぎ、飲みやすくなる食品>



食品名	備考
アイスクリーム	濃い目の味のものが良い。普段食べなれている味は、薬を混ぜると味が変わるので気づかれることがあるため、普段食べていない味を使用することが望ましい。硬いままでではなく、少し柔らかくなったものに薬を混ぜる。
コンデンスミルク（練乳）	味が濃く、甘い。
チョコレートクリーム ピーナッツクリーム	味が濃く、甘い。マロイド系（ケリッドなど）の抗生物質の苦味を和らげる。
メープルシロップ	香りが強い